

幸田町	所属議員	田境 毅
------------	------	------

【活動選定項目】 国・県・市町で取り組むテーマを設定	① カーボンニュートラル(CN)への対応 (エネルギー政策、水素社会、電動車) ② 誰もが自由に安心して移動できるモビリティ社会の実現 ③ 自動車整備士・ドライバーの更なる魅力向上	④ 地域への貢献活動 (例:部活地域移行、ボランティア団体の後継者育成) ⑤ 子育て支援策 ⑥ 行政の DX 推進施策 ⑦ 人手不足解消への対応(多様性や多文化共生への対応など)
具体的活動 (調査・研究含む)	○議会以外での働きかけ 【行政視察】※大阪府能勢町「SDGs 未来都市事業」 先進地の取り組みを調査し、EV 施策などのカーボンニュートラルに関して参考となるエッセンスの反映を、担当課へ働きかけ。	
選択した項目 テーマ ①	<div style="text-align: right; font-size: small;"> 【図や活動の様子が分かる写真など】 事業の説明および意見交換の様子 </div> 	
今後の活動	幸田町第 2 次環境基本計画および、SDGs 未来都市に選定された森林サービス産業の進捗をフォローするとともに、有効な先進事例を継続して収集し提言する。	

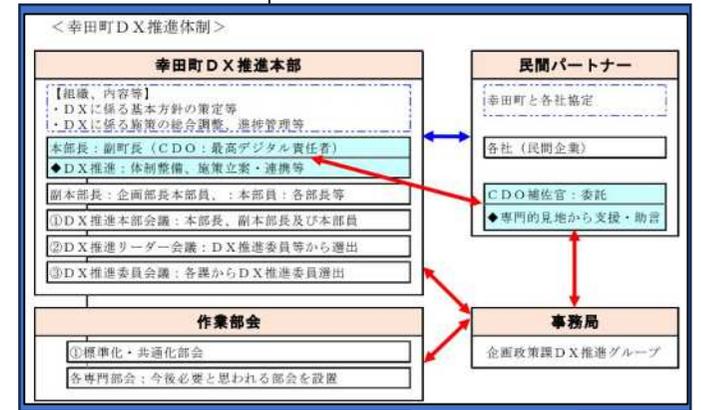
具体的活動
(調査・研究含む)

○議会での働きかけ

【一般質問】 行政の DX 推進施策

DXの取組において全庁横断的に業務の棚卸をされており、業務の改廃や止める・変えるが、見える形になっており、実践できる段階にある。町民のために使う時間を職員一人ひとりが適切に確保できるようどのように進められるのか。業務負担低減の方策として、事業のスクラップを強く意識して、スピード感のある対応をすべきではないか。

【図や活動の様子が分かる写真など】



選択した項目
テーマ ⑥

→令和5年度:DX推進支援業務において住民課をはじめとする窓口担当課の10課17グループを対象に、BPR(業務改革)に伴う業務量調査を実施。各課の事務分掌等に基づき、職員が行うべき複雑業務と単純業務、現行業務内容、業務量調査の実施、課題抽出するとともにヒアリングを行い、現行業務の課題と改善方針の検討、実施方法の具体化をした。

その中で、書面でのやり取りを電子オンライン申請に変更する等して、住民サービスの向上並びに事務を効率化する。

さらなる住民サービスの効率を図る必要があるため、第一段階として、書かない、待たない、迷わない窓口である窓口フロントヤードの改革も進め、最終的には、標準化移行後、データのシステム連携ができる仕組みを構築し、職員の事務効率化する。

デジタルを活用した業務負担低減は、電子申請をはじめとする業務改善アプリにより、こども課を中心に電子申請を適用している。例えば、こども課の児童クラブの入会受付では、年間 1,000 件の申込受付について、システムへの転記時間に年間約 250 時間を要していたが、電子申請の導入により年間 50 時間程度、80%の削減ができる見込み。電子申請は、町民の来庁が不要になるなど、定性的な住民サービスの向上の側面も大きく、今後も継続して各課で導入を進める。

取組を継続していくためには、デジタル人材の育成を並行して進める必要があり研修等を実施中。令和5年度には、児童クラブ入所申請受付をはじめとする10業務の改善アプリを作成。令和6年度には、草刈り機補助申請フォームをはじめとする5業務を作成。現在は、各職員により災害被害の情報収集業務をはじめとする17業務を作成中である。(企画部長)

今後の活動

幸田町 DX 推進方針に基づき進捗をフォローするとともに、有効な先進事例を収集し提言する。